

# 夢

# 振

だ

よ

り

徳之島「夢」振興会議

2006年11月号

第5号

Yumeshin

### 憲章

みんなが自分の「夢」を持っている  
 「夢」を持ち続けることは生きる証  
 ふくらんだ「夢」は明日への力となる  
 「夢」の実現には努力がいる  
 「夢」の輪を広げよう  
 みんなの「夢」は日本中の人の「夢」につながる  
 徳之島の「夢」を世界の「夢」の輪にしよう

発行所 徳之島「夢」振興会議  
 編集発行人 松田周三

お問い合わせ  
 徳之島「夢」振興会議事務局長  
 定久文三  
 〒151-0072 東京都渋谷区  
 幡ヶ谷3-65-15  
 TEL/FAX 03-3299-3650

<http://www.yumeshin.org>

「夢」振興会議のホームページでもごらんになれます



益満友忠作

### 徳之島「夢」振興会議 ロゴマークの説明

「夢」の実生(みしょう=種から芽を出して成長すること)を表現  
 色彩・・・花は紅の情熱、葉は緑の活力  
 葉・・・双葉は象形文字の無限大、若芽は未来  
 花・・・歓喜・・・夢の実現

## 今一度「夢」を語り合おう

徳田昌則

4年前、私たちは、夢を語り、それを少しでも実現したいという志を持って集まり、わが徳之島「夢」振興会議を作りました。今は、その仲間も100名ほどまでに増えました。この間、いろいろなことを語り合い、いろいろな活動をしてみました。中でも、徳之島を花一杯にしようという「夢」は、その実現に向けて、着実に根を下ろしつつあります。

一方、「物産館」を造り、島の産業振興に役立てたいという「夢」は、まだ「語り」の段階です。これに何らかの形を与えるには、さらに工夫が必要です。たとえば、誰にも分かる見取り図を作り、実現へ向けて、出来ることから始める手順を示すことなどです。見取り図の方は、ある程度、「報告書」の中でも示してあります。しかし、資金調達の方法を含め、様々な現実的問題を二つ三つチェックしてゆく、息の長い専門的な作業を進める必要があります。その他にも、様々な「夢」が、その上は、社会に対して道義的にも

法律的にも責任を果たす義務が生じます。その代わり、社会的に認められた団体として、公的な事業活動を営み、公的な支援の受け皿になることも出来るようになります。徳之島各町に対して、指名団体として登録すれば、各町の様々な行政活動に対し、これまで、ややもすれば単なる提言で終わっていた事柄について、具体的な提案活動や行政支援事業を、契約に基づいて責任を持って実施できることとなります。

私たちの周辺には、これまで様々な分野で活躍し、豊かな知識と経験を保有する数多くの人材がおり、それぞれの分野で、太い

人的パイプや広い情報アンテナを持つ方々が大勢おられます。これらの人的資源を、いわゆるボランティアの形ばかりでなく、計画的かつ組織的に活用できるようにすれば、島にとって大きな財産となるはずで、わが「夢」振はそのような場になることを目指したいと思えます。

いざ事業を展開するとなれば、様々な困難やリスクがともなう筈です。それらに挑戦し、それらを克服して始めて、夢は実現されるものでしょう。しかし、「夢」振に集まった全ての人々に、これらの挑戦を求める訳ではありません。様々な事業に関心を持って、ただただ、関心に応じて、夢と志に沿った何らかの貢献を是非お願いしたい。各自の夢を大事にして、その実現に向けて常に議論を戦わせることで、活力が維持されると思います。

そして、夢の対象は、ひとり徳之島に限るわけではありません。奄美諸島を視野に入れ、さらに世界にまで目を向けつつ、まず徳之島に関わるという姿勢が大切だと思っております。最後に、なりました、会員諸兄姉が、「夢」を語りふくらませる場として、「夢」振を大いに活用されることを心から期待いたします。